

苗の発芽・活着システムと出荷調整用貯蔵システム

この花・野菜苗生産業者では、種子の発芽や接木苗の活着にビニールハウスを使っていましたが、苗の生長を左右する温度と光の調整が難しく、商品化率は約8割にとどまっていた。

これを改善するため、温度・湿度・光を調整できる発芽・活着システムを導入し、天候に左右されない計画的な生産を行うことで大幅に商品化率を向上させています。

また、生産した苗は生長を続けるため、出荷時までの期間（最長3週間）の生長量を調整する機能をもった出荷調整用貯蔵システムもあわせて導入し、お客さまが望む量やサイズに応じた計画的な出荷を行っています。

改善効果

- ・計画的で安定した生産と出荷ができます。
- ・サイズが均一で丈夫な高品質苗が生産できます。
- ・運転は自動で行うため、手間がかかりません。

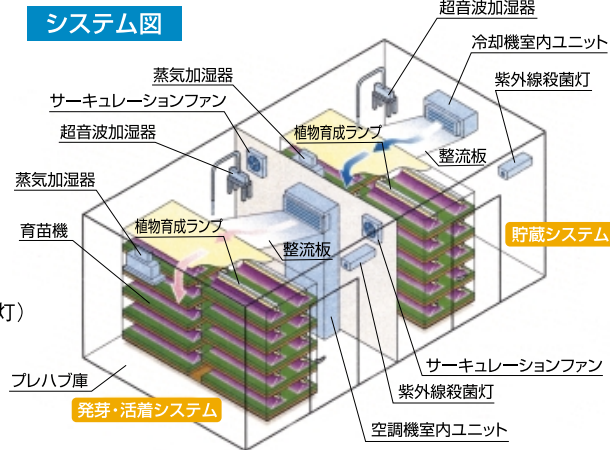
設備概要

○発芽・活着システム：5kW

- ・ヒートポンプ空調機 1.2kW (調整温度:19~28℃)
- ・超音波加湿器 0.15kW
- ・蒸気加湿器 1.5kW
- ・植物育成ランプ 1.8kW (40W×30灯+20W×30灯)
- ・紫外線殺菌灯 15W

○出荷調整用貯蔵システム：6kW

- ・冷凍機 2.35kW (調整温度:5~30℃)
- ・超音波加湿器 0.15kW
- ・蒸気加湿器 1.5kW
- ・植物育成ランプ 1.8kW (40W×30灯+20W×30灯)
- ・紫外線殺菌灯 15W



育成サイクル(すいか)

